

京都府立圖書館
昭和二十七年年度事業報告

(昭和二十七年四月—昭和二十八年三月)

利用者數

五十萬人に達す

(戰前最高利用者數の三倍)

地方分館の新設(園部、北桑、木津)

讀書相談奉仕の充實

盲人點字圖書の貸出

一、概況

昭和二十七年年度の府立圖書館は開設以來の未曾有の活況を呈した。本館、市内の三分館、地方の六分館の利用者数の總計は戦前の本館利用者数の三倍に及んでゐる。但利用者数の増加に拘らず館員数の増加が認められないので、奉仕活動に多くの困難を感じた。

昭和二十七年七月より園部地方分館、北桑地方分館、木津地方分館を新設した。

二、利用者(本館並に市内三分館)

本年度の利用者總數は三十一萬二千九百九十六名で、昨年度に比し三十三パーセントの増加である。

昭和十二年(戦前最高)	一二九、二〇一名
昭和二十五年	二三五、七四一名
昭和二十六年	二三五、五六〇名
昭和二十七年	三二二、九九六名

三、館外貸出冊數(貸出期間一ヶ月)(郡部を對象とする活動)

従來岡崎本館附屬の貸出文庫係を経て、各種文化団体に、期限一月間の長期団体貸出を實施して來たが、峰山、宮津、綾部園部、北桑、木津の六地方分館の開設により、貸出冊數を著しく激増するに至つた。

昭和二十五年	二九、九三七冊
昭和二十六年	四五、三四七冊
昭和二十七年	六一、二八〇冊

此等の長期貸出の書籍は貸出期間中に概ね三人の利用者の手を経る狀況であるから、昭和二十七年年度の長期貸出利用者數は

約十八萬人と推定せられる。

四、京都市内四館の利用者の内譯

利用者數	本館 三〇六、三六六	河原町分館 三九、四四四	伏見分館 四七、三七七	上京分館 二四、四六六
開館日數	三一五	三〇五	二八九	二八四
一日平均	六五五	一二九	一五〇	八五

次に以上の數字を男女別に見ると

男	本館 七一%	河原町分館 八八%	伏見分館 七〇%	上京分館 七九%
女	二九%	一二%	三〇%	二一%

次に之を職業別に見ると

一般	本館 一九%	河原町分館 五二%	伏見分館 二〇%	上京分館 一七%
學生	八一%	四八%	八〇%	八三%

尙學生の種別は岡崎本館の調査によれば

大學生	二九%	高校生	四二%
中學生	一八%	小學生	一一%

五、利用圖書の内容

岡崎本館の本年度の利用冊數は四十二萬七千三百五十三冊であつて、一日の利用冊數は平均千三百五十七冊、一人平均の利用冊數は二・一冊である。いま之を圖書の種別で示せば次の通りである。

總記	四・八%	哲學宗教	三・四%
歴史地誌	一〇・〇%	社會科學	一五・八%
自然科學	一一・〇%	工學	三・四%

六、藏書冊數

昭和二十七年年度末に於ける府立圖書館藏書冊數は二十二萬四千五百二十七冊であつて、昨年度末に比し一萬一千六百三十冊の増加であつた。今その内譯を示せば

産業	二・二%	藝術	四・二%
文學	二一・三%	語學	三・〇%
兒童書	一一・〇%	新聞雜誌	九・九%
岡崎本館	一八二、九五二冊		
貸出文庫	一九、一四二冊		
河原町分館	三、九一冊		
伏見分館	四、五〇六冊		
上京分館	二、九四九冊		
峰山地方分館	二、五七二冊		
宮津地方分館	二、五七二冊		
綾部地方分館	二、五七二冊		
團部地方分館	一、一七冊		
北桑地方分館	一、一七冊		
木津地方分館	一、一七冊		
總計	二二四、五二七冊		

七、開架室の利用狀況

現在開架せる書籍は基本圖書並に利用頻度の多い圖書であつて、新聞雜誌と共に一般利用者の自由利用に供されてゐる。開架冊數の内譯を示せば

兒童室	約二千冊
學生室	約二千五百冊
一般閱覽室	約七千冊

八、讀書相談奉仕の充實

従來も讀書相談の奉仕は不完全ながら行はれてゐたが、二十七年十月より讀書相談室を新設し、専任の司書を置いて之にあらせらるることにした。開始以來の相談件數は三千八百件であつて、一日平均約二十八件である。

九、兒童室

近來學校圖書館が著しく充實せると並行して、兒童室の利用も増大した。附近の小學校兒童中より圖書委員を選んで、圖書室の運営に協力してもらつてゐる。本年度中の利用人員は一萬九千九百六十一名で、男女の比率は男五十七パーセント、女四十三パーセントである。

十、分館

(一) 河原町分館

昭和二十四年六月の開設にして、京都の繁華街河原町通に位置し、丸善書店の地階約三十坪を利用してゐる。藏書は小説と隨筆と新聞雜誌に限り、その内容も常に新陳代謝をはかつてゐる。藏書は約四千冊で開架して居る。席は約五十人分あるが常に滿員の盛況である。本年中の利用者數三萬九千四百四名であつて、學生以外の一般人の利用が多く五十二パーセントである。

(二) 伏見分館 (昭和二十五年二月創設)

伏見地區は岡崎本館より約八軒を距て、分館の荷う使命は大きい。現在は伏見信用金庫の二階約六十坪を借用してゐる。本年度の利用者數は四萬二千九百七十七名で、その八十パーセン

トは學生である。

(三) 上京分館 (昭和二十六年四月創設)

上京地區も岡崎本館より距離遠く、分館の充實の必要が感ぜられる。現在の分館は紫郊會館の一室を借用して閱覽室としてゐる。現在の藏書はクルーガ文庫を合して約三千冊である。部屋の狭小のため藏書並に閱覽席の増加が出来ない狀況である。本年度の利用者は二萬四千二百四十六名である。

(四) 地方分館

昭和二十五年七月綾部、宮津、峰山の三地方分館が發足し、昭和二十七年七月更に園部、北桑、木津の三地方分館が開設せられた。此等の地方分館は地域内の公民館、婦人會、青年會もその他の文化團體に對して三十冊乃至五十冊の團體貸出(期間一ヶ月)に行うものであつてその利用團體數は本年度千六百六十六團體の多きに上つた。又その貸出冊數は五萬二千六百五十一冊に達した。今その内譯を示せば次の通である。

館名	利用團體數	利用冊數
綾部地方分館	三九五	一三、九一四
宮津地方分館	三一	一一、四五七
峰山地方分館	三六〇	一四、五五二
園部地方分館	一九四	四、二一六
北桑地方分館	一四五	三、九八三
木津地方分館	二六一	四、五二九
總計	一、六六六	五二、六五一

十一、本館附屬貸出文庫

本年度に於ける文庫の利用團體數は二百三十三團體にして、

その貸出冊數は八千六百二十九冊であつた。利用團體の半數は京都市内であつて、その他は近郊の農村地區である。

尙本年度盲人圖書約二百冊を新規購入して府立盲學校に委託して府下的一般盲人に利用せしめることとした。

十二、經費

本年度諸經費は約壹千五百萬圓にして、その内譯は人件費約九百萬圓、圖書購入費約參百八拾萬圓、その他約貳百貳拾萬圓であつた。

尙二十八年三月末現在の館員は主事十八名雇二十二名傭人一名臨時雇五名である。